

Bloomberg.co.jp

アトム・キャピタルが新ファンドに3月から助言－政権交代は投資機会

1月8日(ブルームバーグ):ヘッジファンド運用助言のアトム・キャピタル・マネジメントは3月から新ファンドの助言を開始する。業界再編など日本の企業動向を売買機会として上場株式で運用する「イベント・ドリブン戦略型」ファンドで、昨夏の政権交代が政策や制度変更を通じ、企業行動に変化を与えるきっかけになるとみている。

「アトム・ジャパン・アルファ・ファンド」は香港のペンジン・アセット・マネジメントが固定投資家となり、20億円程度からの運用を目指すという。アトム・キャピタルの土屋敦子社長(37)は、基本的に日本株市場を強気では見ていないが、政権交代により少なくとも「自民党のやり方から大きくかわる可能性がある」として注目している。

アトム・キャピタルは住友商事の子会社が運営するアトム・ジャパン・エクイティー・ファンドに07年12月から09年4月まで助言していた。アトム・ジャパンは新ファンドと同様の戦略で、2008年の運用収益は18%だった。

土屋氏は新ファンドの投資機会となる合併・買収(M&A)の動向について、「買収対象のプレミアム(上乗せ金額)は以前より上昇しており、今年は案件数も戻ってくるのではないかと予想。また「親子上場の禁止検討などが話題となることで、企業が前倒しで対応に動く可能性もある」と規制強化の動きにもチャンスがあると分析している。

記事についての記者への問い合わせ先:東京 伊藤 小巻 Komaki Ito kito@bloomberg.net
東京 山崎 朝子 Tomoko Yamazaki tyamazaki@bloomberg.net

更新日時: 2010/01/08 09:55 JST

© 2010 BLOOMBERG L.P. ALL RIGHTS RESERVED. [サービスの要項](#) | [プライバシー保護方針](#) | [商標について](#)